


受賞者氏名	熊谷智博	
所属	キャリアデザイン学部	
受賞年月日	2020年10月22日	
国内・国外	国内	
授与機関等名称	日本心理学会	
受賞名	2020年度学術大会特別優秀発表賞	
受賞(研究)内容詳細	<p>本研究は Sarajevo 大学の Almir Maljevic 先生と共同で実施し、「ボスニア・ヘルツェゴヴィナにおける民族及び共通内集団アイデンティティが政治的態度と過激化に与える効果」という題目で第 84 回日本心理学会にて発表されました。</p> <p>世界には、戦争や民族紛争、宗教対立が激化した結果として社会制度が崩壊してしまった国家も少なくありません。そのような社会でも人々は生きていかなくてはならず、その為には国家と社会制度の再建が急務となります。国家や社会制度の再建は治安維持や効率的な社会生活の実現など、多くの国民にとって利益になるので、それに協力する事は自然な事のように思われます。しかし実際には社会制度の再建に対して様々な障害が生じます。例えば国家の崩壊は社会的権威の弱体化を生みますので、その結果として個人的利益を優先させ、公共的利益に繋がる政策への協力的態度を弱め、そのため社会制度の再建が困難になります。そしてその背後には民主主義を軽視する態度があると考えられ、それが紛争後国家再建の心理的障害となるのです。特に本研究で扱ったボスニア・ヘルツェゴヴィナのような国では、多様な国家観が存在し、必ずしも全ての人が同じ国に対して帰属意識を持っているとは限らず、そのため現状の国家や政府に対して権威を認めない、従って、民主主義的決定も尊重しないという事態が生じやすいと考えられます。</p> <p>民主主義的精神に対する尊重を高める方法は様々ですが、今回の研究では共通内集団アイデンティティの影響に注目しました。共通内集団アイデンティティとはそれぞれ異なる集団に対して帰属意識を持つ人々を、何らかの共通するカテゴリーにおいて「内集団」として認知させる事です。皆が共通した「内集団」の成員として意識を持つ事は集団間の対立を低下させる事が知られています。その様なかつて対立していた集団間の和解を促進する過程において、民主主義の尊重と権威の正当性知覚にどのように影響を与えるか、実際に民族紛争があり、その後の国家再建過程の中で、民族集団間関係を政策的に調整する必要性に直面しているボスニア・ヘルツェゴヴィナにおいて検証しました。</p> <p>調査はボスニア・ヘルツェゴヴィナの 5 都市、Sarajevo, Mostar, Banja Luka, Tuzla, Zenica の住民 250 名を対象に、2019 年 11 月～12 月に質問票を用いて実施しました。その結果、多数派であるボシュニャク系のアイデンティティは共通内集団アイデンティティであるボスニア国民アイデンティティを介して民主主義を尊重する態度を強めていました。しかし少数派であるクロアチア系とセルビア系住民は、共通内集団アイデンティティによって、むしろ民主主義を軽視する態度を強めていました。民主主義の軽視は、選挙によって選出された代表の正当性を認めない事になりますので、権威の正当性を低く認知する事になります。従って共通内集団アイデンティティが紛争後国家再建に寄与するという予測は、多数派住民には当てはまりますが、少数派住民にとってはむしろ国家再建の心理的障害として働く事が確認されました。この事から単に共通内集団アイデンティティを用いるのではなく、先ずはそれをいかにして少数派に受容させる</p>	

かが重要であると考えられます。例えば共通内集団アイデンティティを持つ事によってどのような物質的・象徴的利益があるのかをアピールする必要が考えられます。

戦争や紛争はその予防が重要なのは言うまでもありません。しかし現実にはどんなに努力しても紛争は生じてしまいます。更には多くの場合、紛争を終わらせる事で目的が達成されたと考えてしまいがちです。しかし現実問題として紛争後も人々は困難な生活を続けなければなりません。そのため紛争後の人々に対して心理学はどのような貢献が出来るのかを考えつつ、「世界をほんの少しでもより良くするために」に今後も研究を続けていきます。